



も く じ

- 2 もくじ／ブラジル派遣研修に行ってみて
- 4 平成30年度施政方針
- 11 まちのわだい
- 14 すくーるらいふ(宮原小学校)
- 16 平成30年4月から
国民健康保険制度が変わります
- 17 65歳以上の方へ
～介護保険料の改定について～
- 18 後期高齢者医療保険料のお知らせ
- 20 けんこうだより
- 21 立神峡だより
- 22 町民文芸
- 23 文化財つれづれ／八火図書館だより
- 24 くらしの情報
- 29 伝言板
- 30 春の全国交通安全運動／ひとのうごき
／氷川町の火災・救急件数
- 31 4月カレンダー
- 32 ひかわっ子写真館／まちへのホットライン

日本の裏側の国 ブラジル派遣研修に行ってみて

平成30年2月18～28日まで、宮崎修太さん(西網道)が「くまもと農業経営塾」の塾生代表としてブラジルへ行かれました。その体験談をお伝えします。

日本の裏側ブラジル。行き方は片道30時間を超えるフライト。気候は日本と真逆で夏真っ盛り。目的は農業視察、そして約100年前から始まったブラジル移住を行った日系人の皆さんとの交流です。

初めて訪れる地に希望を胸にサンパウロの地

へと降り立ちました。

ブラジルの農業。想像していた以上の規模。農家の面積は様々で、今回視察に行った農家は400ha以上、最大1万5千haを作る経営者も。

しかもこれでも中規模農家になるんだとか。10万haなどから大規模農家になると聞いてすでに感覚はマヒ。

見てきた品目は、コーヒー、アスパラ、アボガド、ニンニク、トマト、レタスなど。

今月の表紙



(3月18日撮影)

感想としては、ブラジルは途上国で面積は大きいけど大雑把な栽培で技術もそんなに高くないだろうと思っていましたが全くそんな事はない。

セラードと呼ばれる痩せた土地で野菜を作るために、土壌改良の技術や研究は進み、大きな面積で効率よく収益をあげるきめ細やかな経営。出荷場もきれいでオフィスも一企業のようになかつこよさ。

我が家より全然進んでる！衝撃を受けました。今回視察させて頂いた農家さんは日系1世や2世の人がメインで、遠い日本から移住し、異国の地で開拓精神と日本人特有の勤勉さで成功された方々。

そのためブラジルでは日本人への信頼はすご

く厚く「ジャポネス（日本人）だったら大丈夫」という言葉まであるそうです。

今回の旅のもう一つの目的、熊本出身の日系人との交流です。

約100年前始まったブラジル移住ですが13万人が日本から移住し、熊本県は2万人ほどと特に多い県です。

氷川町からも何名かいらっしゃると祖母から聞いたり、友人も親戚がいるなどと言っていました。

今回、ブラジルでお世話してくださったのも日系の熊本出身のみなさん。

農場の視察や観光、移住の歴史やブラジルの文化などを教えてもらい、本当に手厚くもてなして頂きました。

今は2世、3世が多くなっていますが先祖の熊本の地には大変思い入れがあるそうです。

約100年前、私と同世代の熊本人が遠いブラジルへ移住し、過酷な条件のなか農業を行い、成功しブラジルで信頼を勝ち取っていることに驚きと尊敬を強く感じました。

海外の農業は気候も文化も日本とは違い、直接的には勉強にはならないかもしれないけれど、ブラジルまで足を運び、実際に会い、話を聞いたことで感じたことがたくさんあります。やり方は違えど、通じることはたくさんありました。

今回、貴重な経験をさせてもらい、日本で熊本で氷川町でこれからも農業をしていく身としてより一層引き締まる思いです。

地球の裏側に「くまもと」があった。
今後伝えて行けたらと思います。



▲熊本県出身の日系人のみなさんと



▲どこまでも広がるにんじん畑



▲南国特有のカラフルなフルーツ



▲一緒に行った農家の仲間とコーヒー職人と